NIE実践報告

1．タイトル：**キャリア教育と新聞**

2．学校名

神奈川県立三浦臨海高等学校

3．実践者名（代表者名）

横溝　浩正、金子　幹夫

4．学年

第1・2・3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

全教科　約670人

6．単元（本時の学習課題）名

キャリア教育

7．目標(狙い)

新聞をとおして職業観や勤労観を育成する。

8．評価の視点

自分の進路を考える際に、学校社会と一般社会の概念を理解することができたか。また、職業観や勤労観についての興味や関心を育てることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

学校教育全体を通した教育活動です。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

（留意点）

- **通常は、図書室及び各職員室並びに各教室にて生徒は新聞を読み学習することになるが、今回は、生徒が進路を考える際に用意された進路指導室に新聞を置くことによって、職業観や勤労観を育てることに留意した。**
- **その際、授業で扱う教材とは別の視点から、新聞を手にとる生徒は社会に関心を持つようになることが期待された。**
- **実際に、進路指導室に来る生徒は、求人票であるとか進学ガイダンスを目的に相談に来る生徒が多く、そこに社会の実態が表現されている新聞を手にとることにより、授業中とは異なるインパクトを生徒に与えることができると考えた。この点をあらかじめ教職員は留意しておく必要がある。**
- **教材としての緊張感のもと新聞を取り上げるのではなく、あくまでも人生を考える際の一つの資料として自然体で生徒の提供できるような場面をつくることが大切であると考える。**
- **このことに関連して、さらに情報の授業で新聞づくりをしたり、各教科で新聞を題材にした読み物を取り**

11．児童・生徒の反応、感想・意見

まさかここに新聞があるとは思わなかったという意見が大半である。教材はその提供する場所を変えるだけで生徒には意外性を持ってもらえることがわかった。

12．成果と課題

授業とは異なる緊張感のもとで新聞を手にした生徒は、その意外性の中で社会と自分の人生を見つめることができたと思われる。

課題としては，これまでに加えて，生徒の日常生活の別の場所に、どのように新聞を提供すればよいのかというアイディアを教職員と生徒が共に考える必要があるということを挙げることができる。